

# 令和5年度

## まちづくり推進部 増田地域局の方針書

組織名	まちづくり推進部 増田地域局
所属長名	佐藤 孝之

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

地域のみなさんが愛着を持ち「人と地域が燦くまち」を目指して、地域づくりを進めます。

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- ・地域課題の解決に向けて、地域住民が地区交流センターの活動を通じて解決できるように支援することを目指しています。
- ・地域の歴史と文化を活かし、各種団体などと連携を進め、地域の魅力向上に努め、暮らし続けたい地域にすることを目指しています。
- ・市民に寄り添った窓口対応や公共施設を適正に維持管理し、災害の際は市民から頼られる地域局を目指しています。

### 3. 今年度の『スローガン』

歴史と文化を活かし、創意と工夫で地域に元気をもたらそう

### 4. 今年度の方針

- (1) 市民が主役の持続可能な地域づくり活動の推進により、暮らし続けたいまちづくりを進めます。
- (2) 市民が地域の歴史、文化、マンガ等を誇りに思えるまちづくりを進めます。
- (3) 市民に親しまれる施設の適正な維持管理と市民サービスへの信頼向上、危機管理を徹底して市民が安全に安心して暮らせるまちづくりを進めます。

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民が主役の持続可能な地域づくり活動の推進により、暮らし続けたいまちづくりを進めます。
	取組内容	①地区交流センターの取組み・運営を支援し、定期的な情報共有を進め、相互の交流を推進します。 ②各地区の取組み・活動状況などの積極的な紹介を継続し、地域住民の理解と参加しやすい取組みを推進します。 ③各地区交流センターの活動に、相互の住民が参加しやすい取組みを進めます。
(2)	実現したい成果	市民が地域の歴史、文化、マンガ等を誇りに思えるまちづくりを進めます。
	取組内容	①市民が町並み、まんが美術館や地域で守られてきた伝統文化を誇りに思えるよう、関係団体と連携を進め、まちづくりに活かせるよう努めます。 ②地域の学校、地域の各団体など一体となり、地域の魅力を紹介する取組みを推進します。
(3)	実現したい成果	市民に親しまれる施設の適正な維持管理と市民サービスへの信頼向上、危機管理を徹底して市民が安全に安心して暮らせるまちづくりを進めます。
	取組内容	①庁内各課の情報共有を図り、円滑で丁寧な誘導と合せ、スムーズな窓口対応に努め、来庁の皆様が利用しやすい庁舎を目指します。 ②多種多様な相談に対し、的確な対応のスキルとチーム力の向上に努め、信頼される地域局を目指します。 ③公共施設の適正な維持管理と施設改修を図るため、関係課と連携し計画的に改修を進めます。 ④災害時職員初動対応マニュアルを熟知し、円滑な地域局の災害対応ができるようにします。

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 市民が主役の持続可能な地域づくり活動の推進により、暮らし続けたいまちづくりを進めます。  
①4地区交流センター合同連絡会を1回、事務担当者会議を毎月、センター長会議を1回開催し、情報共有と相互の交流を推進した。  
②地区交流センターだよりを増田12回、亀田4回、西成瀬4回、狙半内11回発行し、地域住民に活動の状況を紹介して身近に感じてもらうよう努めた。  
③各地区交流センターの運営協議会が地域住民に地区交流センターまつり等の活動に参加してもらえるように呼びかけていただいた。
- (2) 市民が地域の歴史、文化、マンガ等を誇りに思えるまちづくりを進めます。  
①「増田蔵の日」等の実行委員会等を通じて関係団体との連携を深め、公開家屋のみならず、まちなみの通り全体が一体となって魅力を発信できるような企画を行った。また、増田町観光協会とは定期的に打合せを行い、問題点の共有と解決に努めた。  
②増田小学校と増田地区交流センター、増田町婦人会が協働で花壇の苗植えを実施した。また、増田中学校では「蔵の日」の案内を生徒に行っていたが、学校祭では増田芸術文化協会が出演、展示を行った。
- (3) 市民に親しまれる施設の適正な維持管理と市民サービスへの信頼向上、危機管理を徹底して市民が安全に安心して暮らせるまちづくりを進めます。  
①毎週、地域局内会議を行い、情報共有を行っている。また、ニーズを的確に把握し、迅速確実な窓口サービスを提供した。  
②個々の研修参加や定期的な課内研修により、多様な各種制度への理解を深め、スキルアップを図っている。  
③亀田と西成瀬地区交流センターの会長、副会長及び事務担当者地域局とで老朽化が著しい施設のあり方について検討会を開催した。  
④避難所の運営について配置する対応職員の割り当て表を作成した。また、被害状況の確認や地域局本部の体制について役割分担を行った。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 市民が主役の持続可能な地域づくり活動の推進により、暮らし続けたいまちづくりを進めます。  
今後も引き続き、地区交流センター活動の発信に努め、地域住民に必要なとされる地区交流センターの運営を支援します。
- (2) 市民が地域の歴史、文化、マンガ等を誇りに思えるまちづくりを進めます。  
今後、地域芸術文化祭やりんごまつり等のイベントを通じて地域文化の発信に努めます。
- (3) 市民に親しまれる施設の適正な維持管理と市民サービスへの信頼向上、危機管理を徹底して市民が安全に安心して暮らせるまちづくりを進めます。  
横手市財産経営計画に基づいて亀田及び西成瀬の地区交流センターのあり方を検討し、関係課との協議を行っていきます。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 市民が主役の持続可能な地域づくり活動の推進により、暮らし続けたいまちづくりを進めます。  
①4地区交流センター合同連絡会を2回、事務担当者会議を毎月、センター長会議を4回、地元市議会議員との懇談会を1回開催し、情報共有と相互の交流を推進した。  
②地区交流センターだよりを増田24回、亀田12回、西成瀬10回、狙半内23回発行し、地域住民に活動の状況を紹介して身近に感じてもらうよう努めた。  
③地区交流センターまつり等の活動に多くの地域住民が参加され、盛大に開催することができた。  
今後は、運営委員が若い世代にシフトしていくことを念頭に活動していくことが大切になってきている。
- (2) 市民が地域の歴史、文化、マンガ等を誇りに思えるまちづくりを進めます。  
①「増田蔵の日」等の実行委員会等を通じて関係団体との連携を深め、公開家屋のみならず、まちなみの通り全体が一体となって魅力を発信できるような企画を行った。また、増田町観光協会とは定期的に打合せを行い、問題点の共有と解決に努めた。  
②増田小学校と増田地区交流センター、増田町婦人会が協働で花壇の苗植えを実施した。また、増田中学校では「蔵の日」の案内を生徒に行っていたが、学校祭では増田芸術文化協会が出演、展示を行った。  
③増田町観光協会主催のさくらまつり、りんごまつり、たらいこぎ競争、盆踊り保存会主催の増田の盆踊り、増田地区交流センター主催の梵天を披露する冬まつり等地域の伝統文化を継承し、発信できた。  
課題としては、人口減少と高齢化に伴い各団体とも担い手不足に苦勞している。
- (3) 市民に親しまれる施設の適正な維持管理と市民サービスへの信頼向上、危機管理を徹底して市民が安全に安心して暮らせるまちづくりを進めます。  
①毎週、地域局内会議を行い、情報共有を行っている。また、ニーズを的確に把握し、迅速確実な窓口サービスを提供した。  
②個々の研修参加や定期的な課内研修により、多様な各種制度への理解を深め、スキルアップを図っている。  
③亀田と西成瀬地区交流センターの会長、副会長及び事務担当者地域局とで老朽化が著しい施設のあり方について検討会を開催し、地域がどのような施設を望んでいるかを把握した。また、旧増田町診療所周辺の活用について関係課と連携して取り組むことができた。  
④避難所の運営について配置する対応職員の割り当て表を作成した。また、被害状況の確認や地域局本部の体制について役割分担を行った。  
今後は、横手市財産経営計画にて廃止に位置づけられている所管施設について計画に基づき着実に執行していく。